

# ナッジで促す キャップ回収の変革

「ついやりたくなる」仕掛けの実践と効果検証

小松巧武 / SON MYUNG CHUL / 杉崎桃香

梅田真誓 / 手塚聡一郎 / 平山凜々菜

# 現状の課題と分析

# 課題：義務感による分別の限界

## 「面倒」という心理障壁

学生にとってキャップの分離は「追加のコスト」であり、禁止や命令といった従来の警告文では、自発的な行動を引き出すことが困難になっています。

## 成果の不透明性

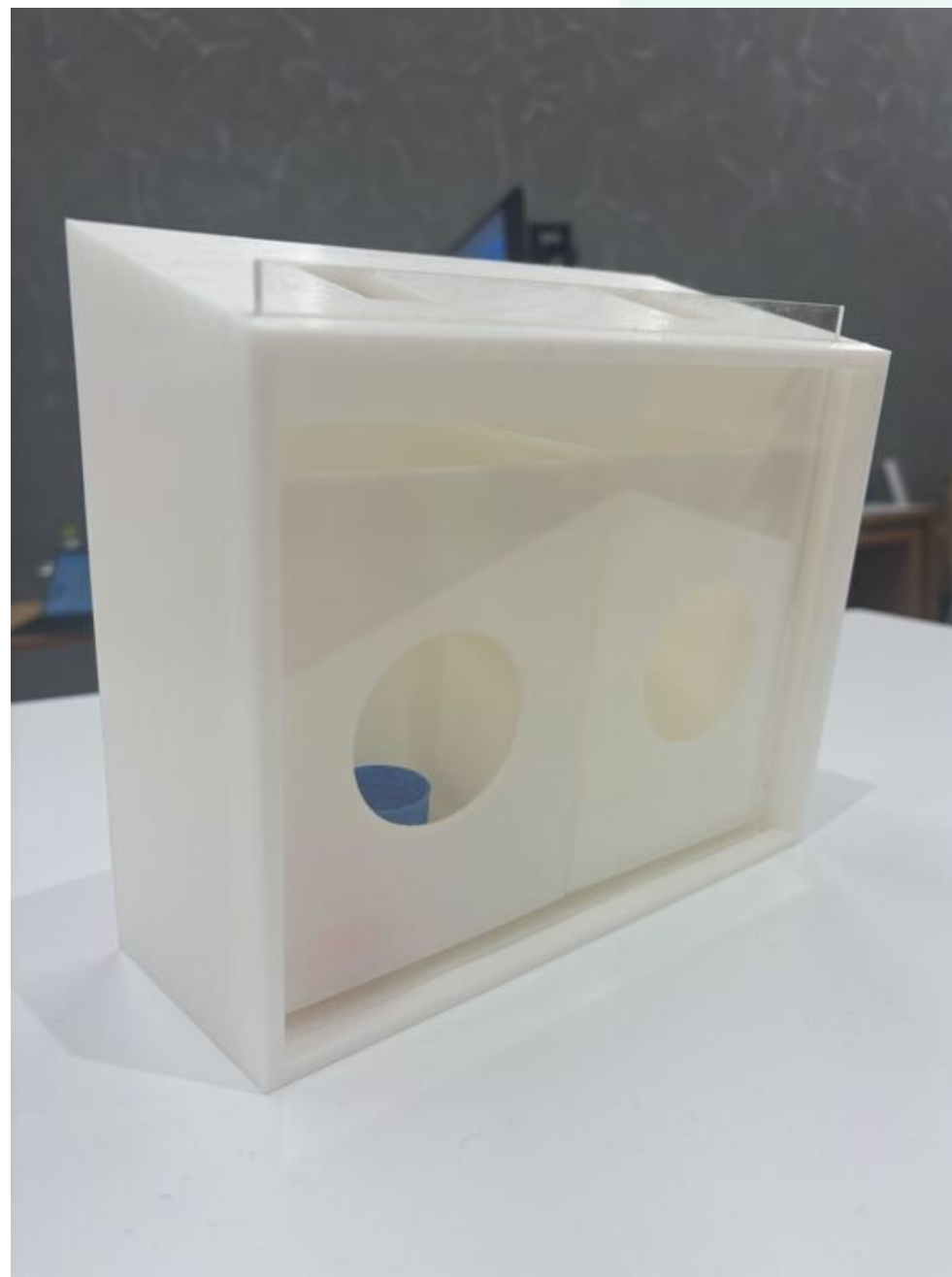
回収されたキャップが何に役立つのか、自分たちの行動がどのような社会的価値を生んでいるのかが見えず、モチベーションが維持されにくい現状があります。

# 施策1：進化型アンケート

## ナッジ・キットの貸出運用

独自の統計を取りたい学生やゼミにアンケートボックスを貸与。回収行動を「データ提供」という協力活動へリフレーミングします。

- 自己決定：興味ある問いへの投票
- 社会的証明：他者の投票の可視化



# 運用モデル：役割分担と責任

担当者	役割・責任範囲	具体的なアクション
依頼者（学生・ゼミ）	統計ニーズの管理	問いの設定、結果の集計・分析、報告
プロジェクトチーム	インフラ提供・支援	ボックスの貸出、設置調整、メンテナンス
一般学生	自発的参加	キャップによる投票（行動変容の主体）

## 施策2：大規模参加型アート

### 広域展開による「協力」の可視化

学食や中央ホールなど、視認性が高く広いスペースに巨大パネルを設置。ゴミ捨てを「アート制作へのクリエイティブな貢献」へと昇華させます。



<https://www.koukousoutai.com/2017soutai/miyagi/katudou/entry-1556.html>

## 施策3：キャップ野球イベント



### 競技化・遊び

キャップを「資源」ではなく  
「遊び道具」として再定義。  
キャンパス内で球会を開催。



### バイラル効果

5階の体育館で実施し、通行  
人の注目を集めることで認知  
度を劇的に向上させます。



### 言語不問の交流

単純なルールが言語の壁を超  
え、留学生との偶発的なコ  
ミュニティ形成を促進。

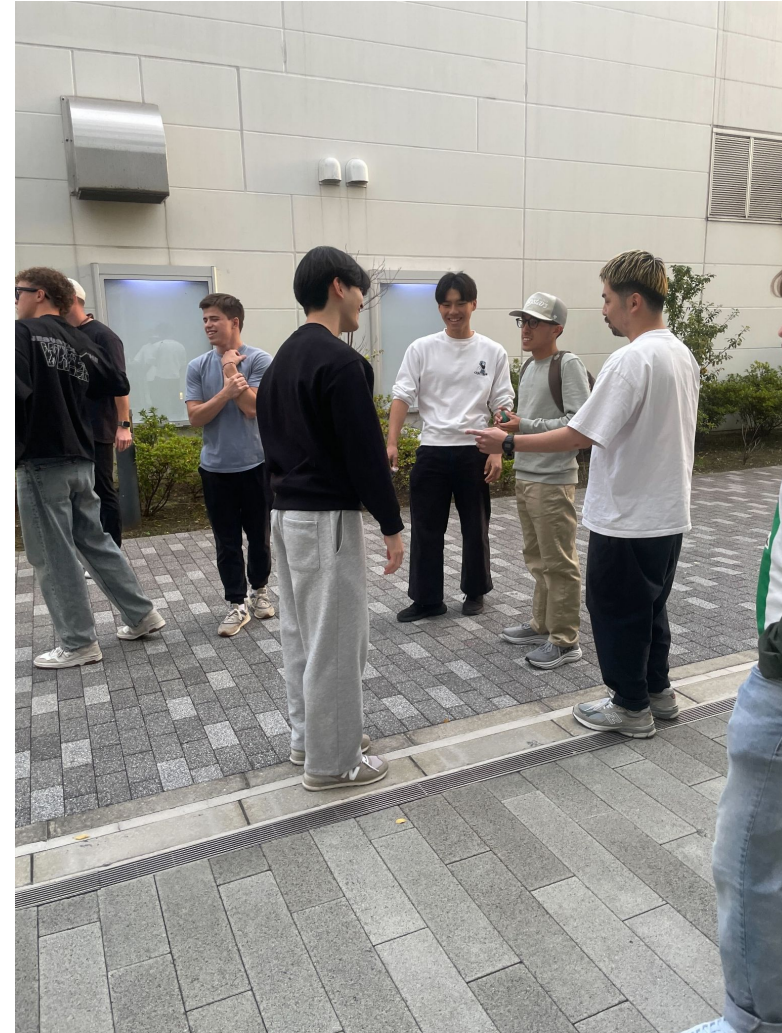
## 施策3：キャップ野球





## 施策3：キャップ野球

キャップを投げていたら  
国際交流につながった！



# ストラックアウト

- ・初心者でも簡単にできる。
- ・キャップを集めやすい

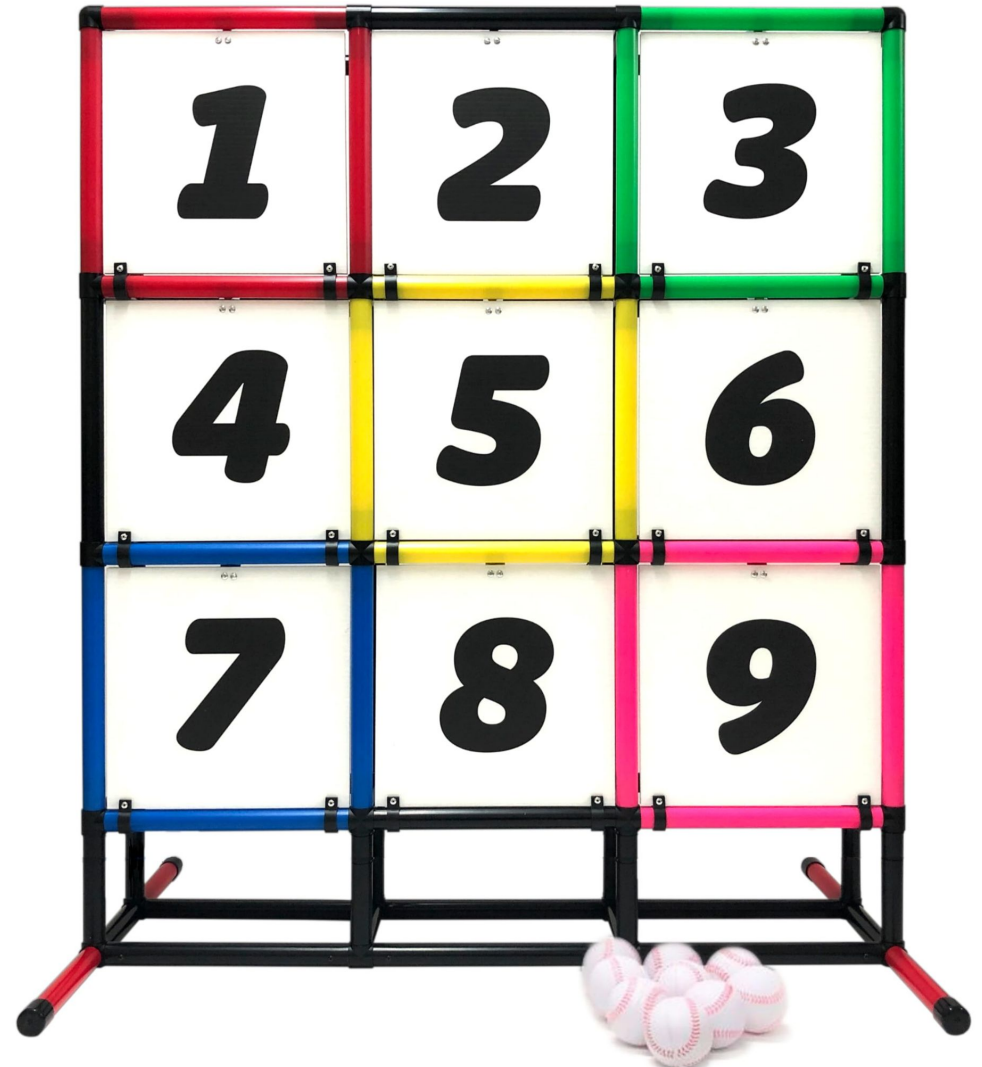
## 流れ

アリーナを借りてイベント開催

グループごとに好きなだけキャップを集めてもらう。

集めたキャップを持ち球として遊んでもらう。

全キャップを回収





## 施策4：賽栓箱（さいせんばこ）



### 文化的文脈の利用

日本人に馴染み深い「お祈りして投入する」という行動スクリプトを、キャップの「栓」とかけたユーモアと共に活用。

投入行為自体を儀式化することで、心理的な満足度を高め、思わず写真を撮りたくなるような「シェアしたくなるナッジ」を創出しました。

## 実験：条件と結果

✓ ～ の二週間 1,2,3(二ヶ所),4(二ヶ所)計6か所

結果：379個

✓ 12月8日～12月22日の二週間 1,2,3,4 計4か所

結果：**587**個

〈内訳〉

1階 賽銭箱 大 397

2階 アンケート インドア 字 78

3階 賽銭箱 小 56アンケート

4階 学食 絵 56

賽銭箱1つで現状の二週間分を上回る！

約1.6倍！

# 考察

## 〈内訳〉

1階 賽銭箱 大 397

2階 アンケート インドア 字 78

3階 賽銭箱 小 56アンケート

4階 学食 絵 56

- ・2, 3, 4階は買う人は多いが、捨てる人は少ない  
時間的余裕や友人といることなどからキャップを外さない  
⇒簡単にできる、友人との話題になり楽しんでできるもの
- ・1階は帰る前など時間に余裕があるタイミングのためキャップを外す人が多い  
⇒多く回収できるように大型のもの



## 結論：行動を変える4つの要素

- ✓ 自己決定：アンケートでの意思表示が、強制ではない自発的な行動の契機となった。
- ✓ 可視化：大規模アート制作を通じて、個人の貢献が全体の一部となる実感を創出した。
- ✓ 体験：野球というスポーツを通じ、キャップを「価値ある遊び道具」として再定義した。
- ✓ 文化的文脈：賽栓箱によるユーモアが、既存の行動習慣を環境行動へシームレスに繋げた。



# 今後の展望： ナッジ・プラットフォーム

学内の多様なニーズと環境行動を繋ぐ、持続可能なインフラ  
へ。

# ご清聴ありがとうございました

皆様からのご質問・コメントをお待ちしております。

ナッジで促すペットボトルキャップ回収プロジェクトチーム 一同